

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
橋本 勉			
月3,4、木3,4			
添付ファイル			

科目の概要	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎に、人体の構造と機能を系統的に学修します。具体的には、人体模型と骨格模型を用いて人体の構造を立体的に捉え、顕微鏡で各器官の微細構造を観察し、人体の機能との関連について学修します。また、身体計測、循環器検査等の概略を学び、それぞれの測定値が健康度判定や病気の診断にどのように用いられるかを学修します。更に、実際にラットの解剖を行い、各器官の局在および形態をヒトと比較することで、人体の構造への理解を深めます。
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（1） 人体模型と組織標本の観察の方法</li> <li>2. 実験 第1回実験 人体模型の観察Ⅰ</li> <li>3. 実験 第2回実験 人体模型の観察Ⅱ</li> <li>4. 実験 第3回実験 骨格模型の観察Ⅰ</li> <li>5. 実験 第4回実験 骨格模型の観察Ⅱ</li> <li>6. 実験 第5回実験 組織標本の観察Ⅰ</li> <li>7. 実験 第6回実験 組織標本の観察Ⅱ</li> <li>8. 実験 第7回実験 組織標本の観察Ⅲ</li> <li>9. 実験 第8回実験 組織標本の観察Ⅳ</li> <li>10. オリエンテーション（2） 生理学実験とラットの解剖</li> <li>11. 実験 第9回実験 身体計測、呼吸機能測定</li> <li>12. 実験 第10回実験 脈拍・血圧・心電図測定</li> <li>13. 実験 第11回実験 血糖値測定、尿検査</li> <li>14. 実験 第12回実験 ラットの解剖</li> <li>15. 予備日 （補講、後始末、提出資料の整理など）</li> </ol>
学習到達目標	人体について、細胞レベルから組織・器官レベルまで、構造と機能を説明できる。食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構や環境変化に対する対応機構を説明できる。
授業の方法	解剖生理学で学んだ人体の各器官の機能および解剖学的な知識を、様々な実験を通してより深く学修します。実験1～8は、4グループ（8班）に分かれ、順次（ローテイトし）実験を行います。実験9～10と実験11～12は、2グループに分かれ、順次実験を行います。
成績評価の方法	レポートを毎回提出します。授業態度（20%）・レポート（80%）により総合的に評価します。
教科書・テキスト	適宜、参考資料を印刷して配布します（指定の教科書なし）。
参考書	「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版」、志村二三夫、岡 純、山田和彦編、羊土社、2020 「プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版」、坂井建雄監訳、医学書院、2019 「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」、竹内修二著、医学教育出版社、2014 「入門組織学 改訂第2版」、牛木辰男著、南江堂、2013 「Nブックス 実験シリーズ 解剖生理学実験」、青峰 正裕・藤田 守編著、建帛社、2009
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	予め、その日の実験の内容を予習・確認し、分からない事柄があれば調べてきてください。課題やレポート提出のための資料検索は授業時間外に行なってください。

履修上の留意事項	日頃から人体のしくみと働きについて関心を持ち、基本的な知識を身につけてください。
オフィスアワー	金曜日の昼休みは、原則、研究室（4号館 4-408号室）に待機しています。 他の時間帯に訪問する場合には、なるべく事前連絡をしてください。
実務経験	放射線診断医として診療に従事（昭和54年～平成25年）
その他	実験中、積極的に発言・質問してください。私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。